

わが子 ジェイソン

白血病と闘った少年の記録



マーサ・バイタリ著

Jason
My Child

by Martha Vitale

*His story...an account of the triumph one can
experience through trust in God*



伝道出版社

わが子ジエyson

マーサ・バイタリ著

JASON MY CHILD

by

Martha Vitale

Published by

Olive Press

Glastonbury, Conn., U.S.A.

Evangelical Publishers

Tokyo, Japan

ベッサニー、ブライアン、メリーエレン、サラ、アシュリー——私たちの心、私たちの日
日を喜びで満たし続けてくれる、神様から授かった五人の子どもたちがこの書をささげる。

目次

まえがき	7
紹介	9
第一章 止まった時間	11
第二章 現実	27
第三章 メリーエレン	39
第四章 悪い知らせ	47
第五章 援助	57
第六章 カリフォルニア	72
第七章 ホープ市(希望の町)	78
第八章 歌声	85
第九章 移植	91
第十章 近づく誕生日	107

第十一章	帰宅	117
第十二章	嵐 <small>あらし</small> の中の静けさ	121
第十三章	レベッカ	137
第十四章	心の備えなく	146
第十五章	心優しいメッセージ	158
第十六章	解き放たれて	164
第十七章	その時まで	182
エピローグ		185

まえがき

病はすべて神の御許しのうちにあります。ジェイソンもこのことを受け入れていました。彼と出会い、彼を愛した方ならみな、彼のことを語るとき、まずこの事実注目なざるのではないかと思えます。彼の確信は、しっかりとした認識に基づいたものでした。彼は、自分が重い病気にかかっていることを初めて知ったときも、主はご自分がなさっていることをご存じだということを理解していたのです。彼の信仰は子どもらしい、実に純真なものでした。すべてを知り尽くし、すべての状況を支配なさるお方を心から信頼していたのです。彼は、できる限り普通の生活を送りたいと願っていました。しかし、たとえその願いがかなえられないときでも、彼のことばをそのまま借りれば、「すべてが主の御手のうちにあった」のです。

彼は、自分が天国に行くことを確信をもって語りました。まるで、もうすぐ旅行にでも出かけるかのように。彼は、とても子どもとは思えないような観点で物事を見ていました。彼が人生を見つめていた窓は、空想や、つかの間の喜びで曇ってはいませんでした。魅力的で元気はつらつとした彼は、普通の子どもが経験するさまざまな活動をすべて満喫しました。学校に通い、本を読んだり、

何かに夢中になったり、友だちと遊んだり……。しかし、彼には、周囲の人々の注意を引くきびしい現実もありました。ジェイソンに弔辞を書くよう言われたとき、五年生だった同級生たちが思い出したことは、ジェイソンが好きだった「四輪車の冒険」のことではありませんでした。子どもたちが思い出し出したのは、彼の親切であり、その誠実な人柄であり、他人のことをいたわる心、他人を思いやる心でした。そして、「彼の優しさは、ほかの子どもたちの優しさとはどこか違う、何か特別な優しさだった」ということでした。

ジェイソンは、病という現実を一つの機会として捕らえ、自分が信じているお方を人々に伝えようとしました。救い主なるキリストこそ永遠に所有することのできる唯一の資産であると。彼が死を迎えたとき、私は彼のそばに座り、その「小さな船」が向こう岸へゆっくり渡って行くのを見届けました。短い人生でした。嵐あらしのような航路でした。しかし、ジェイソンは世を去って、キリストとともにいるのです。そのほうが、はるかに優っているのです（ピリピ人への手紙一章二三節）。彼は、あるお方によって「ふるさと」へ迎えられたのです。そのお方にお会いしたことはなかったのですが、そのお方をよく知っていました。まだ幼かったジェイソンが頼っていたお方——救い主イエス——は、御約束どおり彼の生涯の友となってくださったばかりか、向こう岸で彼を温かく出迎えてくださったのです。

紹介

どの母親にとっても、自分の子どもは特別な存在です。いのちが誕生した瞬間、何か魔法のようなものが働きはじめます。そのときから、母親というものは、自分の外側で、「もう一人の自分」が別の役柄を演じているような気がするのです。私は七人の子を授かりましたが、どの子ども私にとっでは特別な存在です。長男とか、末っ子とか、家族の中での子どもたちの立場はそれぞれに違いますが、どの子ども特別だと思ふ気持ちに変わりありません。私は、ジェイソンの優れた一面を他人に印象づけようとして、この本を書いたわけではありません。神が私たちの必要をすべて満たすためにお採りになる驚くべき方法をご紹介したかったです。ジェイソンは、純真な信仰をもって、主のみこころに従い、私たち全員の模範となりました。彼の物語は、大きな悲しみの記録でもなければ、敗北の記録でもありません。神に信頼を置く者がどのような勝利を経験できるか、それを記録したもののなのです。

紹介

夫のウェスと私は、ジェイソンの「物語」でさまざまな役割を果たしてくださった方々全員に、心から感謝したいのです。しかし、限られた紙面では、すべての方々のお名前をあげることはでき

ませんでした。だからといって、そのような方々のことを忘れてしまったわけではありません。病院の方々には、ずいぶんお世話になりました。長年の間、親身になって、私たちを支え、私たちのために労してくださいました。そのお心遣いを忘れることはないでしょう。

親戚しんせきの方々にも、家族同様のおつき合いをしてくださった多くのクリスチャンの方々にも、ずいぶんお世話になりました。皆様方のお力添えなくしては、この「物語」が完成することもなかったでしょう。

ニューハンプシャー州とメリマック・バレーの皆様から感謝を申し上げます。頂いたお便りによって、そのあふれ出る愛とお心遣いによって、どれほど励まされたことでしょう。ジェイソンを励まそうとして、たくさんの子どもさんたちが、絵を描いたり、手紙を書いて送ってくださいました。写真や「お守り」を送ってくださいました子どもさんもいました。どれも心温まるものばかりでした。一度もお目にかかったことのない方々が、新聞で読んだだけの少年に、貴重な時間を割いて手紙を書いてくださいました。お一人おひとりに、どのようにお礼を申し上げればよいのかわかりません。この本によって、その気持ち但至少でもお伝えできればと願うばかりです。感謝の気持ちが私たちの心から消え去ることは永遠にないでしょうから。